

西東京市若者会議実施報告

1 西東京市若者会議について

(1) 概要

若者が日ごろ感じていることや、市に求めるもの、市が実施している事業について若者がどう感じているか、市の情報が若者には届きにくいといった若者調査の結果などについて、若者の意見を伺い、若者が市政に参画するための仕組みなどの検討をするために「西東京市若者会議」を令和 8 年度から実施する。

(2) メンバー

- ① 高校生年代以上 29 歳以下の市内在住・在勤・在学の者・15 人
- ② 元若者ミーティングのメンバー、ファシリテーター 4 人
- ③ 若手職員・2 人

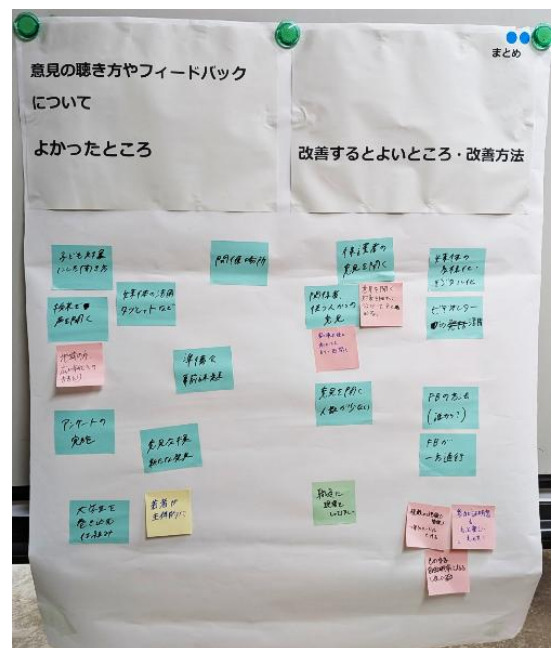
(3) 活動

会議	実施月	内容
第 1 回	令和 8 年 5 月 21 日（木）	・ 評価検証事業の説明・選択
第 2 回	6 月 17 日（水）	・ 検証する上での視点の説明 ・ 第 1 回会議で選択した事業について勉強会
第 3 回	7 月 8 日（水）	・ 各グループの若者の評価のまとめ ・ 全体の若者の評価のまとめ
第 4 回	7 月 15 日（水）	・ 発表

2 西東京市若者会議からの評価について

- (1) 事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか、聞いた意見に対して何らかのフィードバックをしたか

よかったところ	良かった点として、まず、意見を聞く対象や場を工夫し、必要な層から意見を集められていたことが挙げられた。中高生など、事業に関係の深い層を対象にした準備会を設けたことや、事前課題によって参加者が意見を出しやすい環境を整えていたことが評価された。 次に、アンケートを通じて幅広い層から多くの意見を集めていた点も良い点として整理された。意見の数が多いほど、より良い判断につながるという考えが示された。 さらに、意見を聞くだけでなく、参加者同士で意見交換を行い、発表などのアウトプットの機会を設けていたことにより、意見を磨く場が用意されていたことも評価された。
改善するとよいところ	改善点として、若者本人だけでなく、保護者や周辺の関係者など、若者を客観的に見ている人の意見も聞く必要があるとされた。また、意見を聞く対象をより細かく分けることや、会議の場で言えなかったことを、帰宅後に改めて聞く仕組みがあるとよいという意見も出された。 意見を聞く人数については、母数を増やし、より多様な意見を取り入れる必要があるとされた。媒体についても、紙のアンケートだけでなく、デジタルツールやタブレットなど、複数の方法を活用することが望ましいとされた。 フィードバックについては、一方通行になりがちである点が課題として挙げられた。また、複数の施設でフィードバックの機会を設けることや、フィードバック内容を自由研究などに活用できる形にする案も示された。

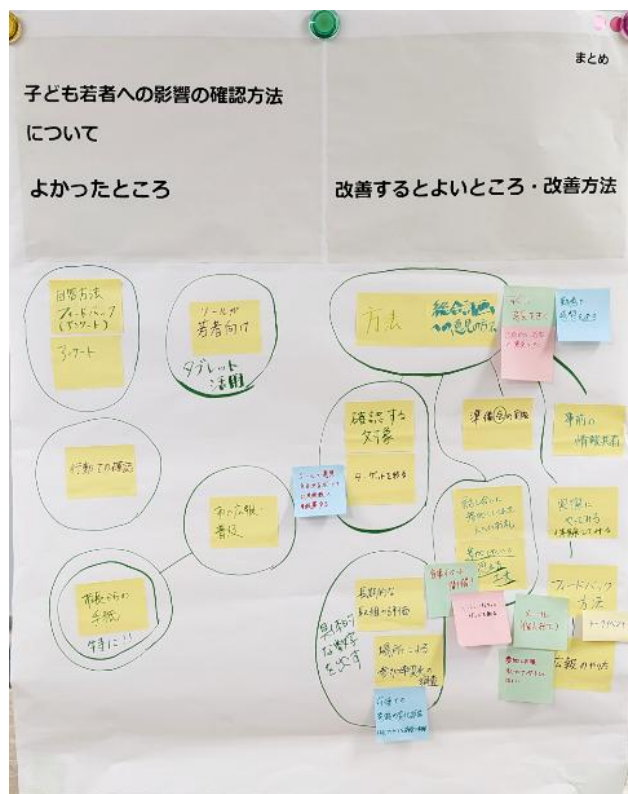
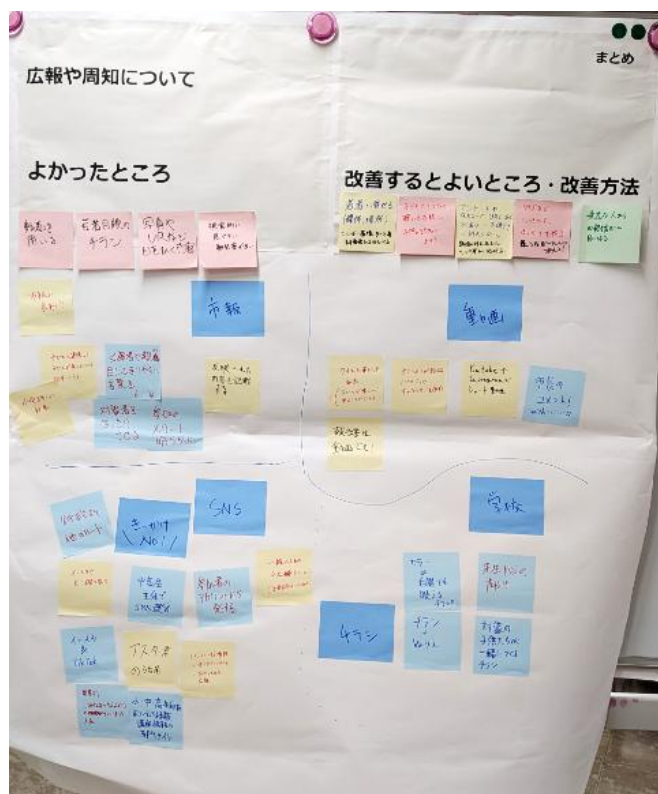


(2) 子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か。

よ か っ た と こ ろ	良かった点として、動画を用いた発信、若者目線で作成されたチラシ、大学生によるチラシ作成、写真の掲載、VR など目を引く言葉の使用、視覚的に見やすい報告書の作成などが挙げられた。これらは、情報を受け取る側の目に入りやすくする工夫であると整理された。
改 善 す る と よ い と こ ろ	改善点は、市報、動画、学校・チラシ、SNS の4つに分けて整理された。 市報については、読む人と読まない人が分かれるため、当事者の目に留まりやすい表現が必要であるとされた。例えば、「〇〇へ」といった呼びかけや、保護者向けに「子どもが参加するとどのような良いことがあるか」を伝えることが有効であるとされた。また、市報の表紙は中身を読まない人にも届く可能性があるため、表紙での情報発信を重視すべきであるとされた。 動画については、子どもや若者が YouTube やショート動画をよく見ることを踏まえ、市のアカウントから人気コンテンツを参考にした動画や、クイズ形式の動画を発信する案が示された。また、市長のコメント動画などを通じて、市政をより身近に感じられるようにすることも提案された。さらに、「自分たちの声によって何が改善されたのか」が分かる動画を作ることで、子どもたちが実感を持ちやすくなるとされた。動画から関連サイトへ移動できるように、URL や QR コードを活用することも有効であるとされた。 学校やチラシについては、カラーでも白黒でも見やすいデザインにする必要があるとされた。学校で配布する際には、先生から一言声をかけてもらうことも重要であるとされた。また、子どもと一緒にチラシを作ることや、塗り絵のように子どもが触れたいくなるチラシにする案も出された。 SNS については、周知のきっかけとして重要であるとされた。小学生には使いにくい面がある一方で、中高生が主体となって SNS を運用したり、参加者自身のアカウントから発信したりすることで、友人などに広がりやすいとされた。市の PR 大使を一般の人から募集することや、Instagram、X、TikTok などを活用することも提案された。また、市のキャラクターの積極的な活用や、中高生向けにボランティア情報、講座情報などをまとめた専用サイトの整備も有効であるとされた。 全体として、どの媒体でも対象者に合わせた言葉、画像、テーマを使うことが重要であるとまとめられた。子ども向けであればクイズなどを活用し、子どもの目に留まりやすくすることが望ましいとされた。また、子ども本人だけでなく、保護者にもアプローチする必要があると整理された。

(3) この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか。

よかったところ	良かった点として、意見を聞いて終わりにするのではなく、その後にフィードバックを行っていたことが挙げられた。また、タブレットなど若者に合ったツールを活用していたことにより、確認しやすい方法になっていたとされた。 さらに、数値だけでなく、子どもたちの行動や表情など、数字では見えにくい部分も確認していたことが評価された。加えて、市長から直接手紙が届くことは、子どもたちにとって市長との関わりを実感できる機会になり、参加意欲にもつながるとされた。
改善するとよいところ	改善点としては、ターゲットをより明確に絞る必要があるとされた。具体的な方法として、公共施設など若者が集まる場所に、シールで意見を示せるボードを設置する案が出された。 また、具体的な数字をもっと示す必要があるとされた。事業の実施前後でどのような変化があったのか、また意見を聞くタイミングをどうするのかなど、数値化や比較の工夫が必要であるとされた。 さらに、今後より多くの人に参加してもらうための工夫として、食事イベント、参加のお礼としてのグッズ配布、個人宛てのメール、動画、トークイベントなどが提案された。 最終的には、単に意見をもらうのではなく、意見をもらいやすい土台を作ることが、影響を確認する方法として重要であるとまとめられた。



付箋そのまま

①子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか

	よかったところ	改善するとよいところ・改善方法
グループ①	・高校生4人・中学生4人 ・準備会の開催 ・1回じゃなくて計8回 ・準備会を行なった ・視察を行なった(4ヶ所) ・中高生中心のワークショップ ・ワークショップを行なった ・意見を出しやすい工夫 ・聞き方の工夫・アレンジ ・ふせんを使って沢山意見を出せている。 ・グループごとに分かれて意見を整理している。 ・中高生の意見をしっかり取り入れている ・内装やコンセプトへの反映 ・アンケートを中高生が主体となって作っていた。 ・市内の中学生などを対象に広くアンケートができている ・市内中学校、高校へのアンケートを行った。 ・アンケートもやっている ・内容を大学生が考えている ・ファシリテーターを大学生がしている ・改修前の良いところ残してる ・幼児ルーム、図書室、遊び室 ・実際の利用者が想定されている ・フィードバック少ない？	声の数 ・人数が少ない(10～20人) ・意見が沢山あった方がいい ・アンケートの母数は多い方がいい(3ヶタ以上など) ・Webアンケートを行なう ・匿名がいい 視察 ・住んでいる環境に近い所 ・テーマに近い児童館を提案する ・地域ニーズの反映 対象者 ・田無柳沢児童センター周辺の中高に直接訪問し意見をきく ・児童館を現在利用していない層を意図的に公募に含める ・卒業生(大学生等)へ意見聴取 ・保護者層への意見聴取 ・設計内容や図面にパターンがあるといい。 ・選びたい！ ・2or3パターンほしい ・W・Sの中身の濃さ
グループ②	・タブレットの活用 ・1、2年生に意見を聞く(より若い世代、施設のターゲットに近い) ・出前授業の実施→若者の意見を聞くきっかけ作り ・対象エリア内の各世帯へチラシをポスティング ・大学生を巻き込んだところ(大学生まで含めて若者と意識させる) ・授業という必須のものにすることでアンケートの回答を確保している ・活用案など具体の意見も集めている	・複数人からの意見が必要だと考える(若者会議に1人しか参加してない) ・若者向けの市政モニター実施 ・誰でも気軽に意見が言えるよう意見回収ボックスの設置だと考える。

グループ③	・意見を聴く期間 夏休みに開催!! 短期集中 ・意見を聴く回数・理解してもらう工夫 事前に課題を出したこと 事前課題を出して理解してもらった ・色々な世代と話し合えた 大学生と一緒に話せた 多（他）世代の意見きける ・小学生が中学生がなじみのある場所で話すことができた	・そのまま自由研究になったら◎ ・参加証明書→もっと楽しいものを！ ・「親子トーク」→年齢層が低くても来やすい ・年齢層を限定して「小4の会」みたいにすると友だちと来やすいかも ・事前課題内の（カッコ）を減らして、より読みやすく ・意見フィードバックも各小中学校で配ると良い！！ ・反映された意見をおしらせ ・ふだん、その場所を使う人からの意見もほしい ・場所も「日常の中で行くところ」に変える！ 保護者同伴 ・1か所開催 →親の負担大 →親にいきたいと言にくい ・親むけのセミナー的なのを同時開催！
グループ④	・実際に子供たちに授業を用いて声を聞いたところ ・「西東京市」について学んでいる小3生に意見を出しているところ ・副読本に書いてある課題とテーマ・議題が一致していたので考えやすかった ・子供同士（けやき小）で意見交換をし合っている点 ・出した意見に対するフィードバックがある点	・子どもに直接関係がある題材があるとよいのではないか？ ・代表以外のグループもビデオレターなどで市に発表できると良い ・家に帰った後に考えたことをもう一回意見を聞く。1手に数回やる ・課題（テーマ）を担当する課の人からフィードバックをする ・実施する学校数を増やし、子供達の意見の数を増やす ・小学生だけでなく、中学生にも総合計画書を授業でとりくんでもらう



②意見聴取にあたり、どのような手段を使って広報や周知をしたか

	よかったところ	改善するとよいところ・改善方法
グループ①	・図書館利用者への声かけ ・掲示板 ・そこにいる人へ向けている ・報告書が視覚的に見やすい ・やりたいことのビジョンがわかる ・準備会メンバー募集のチラシを作成した ・準備会の募集がわかりやすい ・写真で興味をひく。 ・やる事がすぐにわかるチラシ ・行かない人はどこで知る？ ・掲示場所少ない？ ・今後の活動を具体的に知りたい	・ショート動画の活用 ・準備会のように、中高生主体で SNS を運営 ・定期的な報告（広く） ・イベントでそのイベントが成立した経緯を提示する。 ・児童館の外にも掲示する ・準備会の各回の内容について掲示する。 ・今後子どもたちにわかりやすい形で。 ・親世代も見えたら伝わるかも？ ・設計図面だけ見ても…？ ・学校で配ってもらう ・届く可能性を広げる ・どんな意見、どう反映されたか視覚化 ・「自分の言ったこと入ってる！」 ・メンバー募集のことを市のホームページにのせる ・メンバー募集のことを市報にのせる ・メンバー募集のことを SNS にのせる ・第 1 期・2 期の活動報告を市内の全中高に掲示 ・第 1 期・2 期の活動の様子を市のホームページや SNS に掲載 ・中学校、高校の昼休み放送を利用し宣伝する ・メンバー募集のチラシを市内の全中高に配布する ・メンバー募集のチラシを市内掲示板に掲示する ・児童館へ行かなくなった層へのアプローチ ・中高生に人気のインフルエンサーの力を借り、広報してもらう
グループ②	・YouTube など若者の目に止まるプラットフォームで展開 ・田無三中周辺に住む市民を対象としたチラシのポスティング ・若者視点によるデザイン画を用いたチラシを作成 →若者になじみのあるデザインにより興味を引き出す ・事業の取り組みをキャンペーンへ掲載 →次世代の若者にも周知を行なうことができる。 ・VR 技術でイメージ湧きやすく	・ユーチューブ以外の SNS の活用→Instagram や X ・YouTube の構成やテロップを若者向けに（見たくなるような） ・田無三中以外の高校にも意見聞けたら（幅広い世代に） ・事業の取り組みを知る前と知った後の気持ちの変化を知るために複数のアンケートを実施→1 回以上

グループ③	・小学生向けと中学生向けで分けてチラシを作成 ・子供がわかりやすいチラシを作り配布した ・イラストが可愛い！子どもウケ◎	市報 ・市報で「小学生～高校生のみなさんへ」と書くとい - い！ ・協力大学のこともっと！⇒親が興味もつ ・今まで参加した子どもの変化を掲載！⇒参加させたくなる SNS ・小中学生はホームページを開く？ ・SNS の活用 学校 ・チラシはカラーで見してほしい ・学校での配布の仕方 ・学校で先生による説明をしたら良いと思う ・小学生や中学生が多く所属する団体にチラシをくばってみる ・チラシにアンケート QR⇒量的調査⇒家に届いているかわかる ・保護者向けのお知らせも作る ・保護者同伴の学年をきめる。
グループ④	・けやき小学校小3生にワーク式の総合計画書 ・動画等を使用して授業を出来る学校を増やすというのが実現するととても良い ・動画を用いることで市役所の方々が学校へ赴かなくとも市長の言葉を聞ける ・最初に動画を用いて子どもたちに説明したのが良かった（市長といこいな） ・市長と教育長に実際に発表できるというゴールが良い	・子供記者と連携して子供たちが考えたことをまとめて記事にする ・特設サイト作成（西東京市の教科書の内容サイト ver） ・計画書のデジタル化 ・すぐーなどを用いて、親から周知してもらう。 ・インスタやXに広告を流す ・より外への広報をする。 ・子ども総合計画のクイズを小学校や中学校の生徒に考えてもらう。 ・子どもに子どもが楽しいと思える広報の方法を考えてもらう。 ・動画で子供たちが好きなパロディやキャラクターを使用 ・授業内容でクイズを導入 ・総合計画 Ver ドラクエ（ゲーム）→ホームページにのせる

③その事業による、子ども若者への影響をどのように確認したか

	よかったところ	改善するとよいところ・改善方法
グループ①	・参加してくれた人がいるってことには少しでも興味があった？	・たくさんの子どもが来ることを想定しているなら、広く伝えないとは？ ・児童館に意見箱を設置する ・職員は定期的に訪れる ・シールを用いたりする軽いアンケートを児童館で行う ・○×シールで意見を示せるボードを児童館に設置する ・計画を進める段階を都度報告する（対メンバー・メンバー外） ・食事イベントを開催して、来場者に直接意見をきく ・定期的に若者の意見をきく（完成後も） ・周辺中学校・高校への期待度調査を行う ・準備会に参加したメンバーに準備会に対する意見、感想、改善策をきく ・準備会で出た意見について、広く見解をもらう
グループ②	・タブレット活用でのアンケート実施	・直後のアンケートだけでなく時間が経って市の取組をもう一度評価したい（関心度合いなど） ・実際に市のイベントを近隣で実施し、参加率の変化を測る
グループ③	・ゼミ生から見た子どもの変化 ・アンケートだからこそまわりの意見に左右されず答えられると思う ・フィードバックで子供から素直な意見をもらえていた。	・子どもの保護者など大人の意見もあるとより良い！ ・子供の感想動画を親に撮ってもらい、より生の声を受けたい。 ・参加した後すぐに意見をきくと良い



グループ④	・直接、市長から手紙をもらえたこと ・ワーク式総合計画配付→市長へ後日生徒が手紙を送った ・授業で市長が登場 ・市長からの手紙がとてうれしいと思うので続けてほしいです ・西東京市専用の教科書みたいなのを学校の先生と一緒に作成しているところ	・数値的な計測をしていないので、アンケートの実施を行う。 ・ホームページに総合計画についての自由記述欄を設ける ・市長からの手紙に対する子どもの感想や意見を可視化できるようなものを作るにも ・授業導入として子供たちにけやき小学校の事例を今後伝えたいと思います ・子どもだけで総合計画を作成してみる ・広報誌の表紙に出る ・発表に選ばれたチームがクラスからひょうしょうされる ・いこいなちゃんグッズを送る ・市長と会食（クラスの給食に参加してみんなで食べる）
--------------	---	--

